

クラブハウス主催・森のようちえん 二日目

報告者 浦野 真沙子

★<NO Toy, NO Technology>の精神

森のようちえん二日目は、具体的な活動の様子を見ての研修となった。

すでに、一昨年前に訪問させていただいた時に<NO Toy, NO Technology>の精神についてのお話を伺っていましたが、一貫して引き継がれていました。

また園長先生は、今の子どもの育ちはとても限られた中でしか育まれるチャンスがない。先天性の発達障害は割合的には少なく、環境的要因が招くことが多い。

そのため、森のようちえんを通じて子どもの成長に5割強の成果を上げていると話された。

実際に子どもたちの様子を拝見すると、広大な敷地の中でひとりひとりが自由にのびのびと遊ぶ姿がみられ、先生たちは見守ることを徹底している。

★体験を通し学ぶ大切さ

日本ではつい、ケンカをさせない・怪我させない。にとらわれ保育を行うことが多いが、カナダでは、ケンカをしないために、なぜケンカをしない方が良いのか。

同じように、どうしたら怪我をしないのか。を、先生は子どもたちに考えさせる・考えるための時間を与える。<体験を通し学ぶ>を大切にしていた。

そのため、先生は何かあっても、むやみに声をかけたり手を貸したりはしない。しかし、何が起き、どうするかをそっと見守り、必要に応じてヒントを出す。そこから、答えを導き出すのは子ども自身で、先生は解決の糸口が見つけられたことを認め・ほめる。このようにして、子どもたちは自らの体験を通して長い人生を生きぬく力を育んでいくのだと感じました。

★性別や年齢を越えて遊ぶ

大自然の中では、様々な体験ができます。たとえば、命（生物）についても学ぶことができます。動物や昆虫の生態について気づき、触れたり知ったり、時には生まれたばかりの命に感動したり、逆に終わりゆく命を見守り自然（土）に返してあげるなどの経験から、思いやりの心を学ぶこともできるのです。

また、室内での行動に支援の必要な子が、自然の中では全く支援を必要としないなど、暴力やストレスがない。大人も同じである。さらに、室内では、男の子は男の子と、女の子は女の子と遊ぶ傾向が強いが、自然の中では性別や年齢を越えて遊ぶことができる。

★更なる夢に向かって

まとめにかえて、何度訪れても、発見と課題と夢に出逢える最高の場所。何より、たった2年の間に世代が代わり、されど傳承すべきことは徹底して引き継がれ

更なる夢に向かって動き始めているスタッフが、生き生きと働いていると感じた。

先生ひとりひとりが、園長先生の思いを理解し保育

に活かす。その素晴らしい先生をまとめる園長先生もまたとても素晴らしい方でした。

